

リビング・モダニティ 住まいの実験 1920s-1970s

LIVING Modernity: Experiments in the Exceptional and Everyday 1920s-1970s

3月19日(水) — 6月30日(月)

【会場】企画展示室 1E, 2E

【主催】国立新美術館、東京新聞、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁

1920年代以降、ル・コルビュジエやミース・ファン・デル・ローエといった多くの建築家が、機能的で快適な新しい住まいを探索しました。その実験的なビジョンと革新的なアイデアは、やがて日常へと波及し、人々の暮らしを大きく変えていきました。本展覧会では、衛生、素材、窓、キッチン、調度、メディア、ランドスケープという、モダン・ハウスを特徴づける7つの観点に着目します。そして、傑作と称される14邸を中心とした世界各地の住宅を、写真や図面、スケッチ、模型、家具、テキスタイル、食器、雑誌やグラフィック、映像などを通じて多角的に検証します。本展覧会でご紹介する住宅建築のモダニティは、今も息づいています。本展覧会は、私たちの暮らしと住まいを見つめ直す機会にもなるでしょう。



フランク・ゲーリー
フランク&ベルタ・ゲーリー邸 1978年
© Frank O. Gehry, Getty Research Institute,
Los Angeles (2017.M.66)

日本の現代美術と世界 1989-2010 (仮称)

Japanese Contemporary Art and the World 1989-2010 (working title)

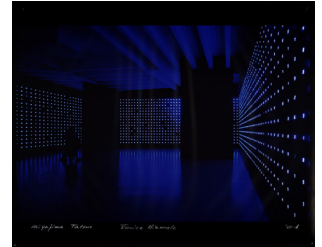
9月3日(水) — 12月8日(月)

【会場】企画展示室 1E 【主催】国立新美術館、M+

本展覧会は1989年から2010年までの約20年間に焦点をあて、日本の現代美術を再考するものです。昭和が終わり平成元年を迎えた1989年と、2011年の東日本大震災という大きな節目に挟まれたこの20年は、冷戦の終結とともにグローバル化が進み、国内外を問わず、政治、経済、文化、市民生活が大きく変化した時代です。

国や地域の枠組みを超えて、国際交流を重ねながら変化してきた日本の現代美術の軌跡をたどる本展覧会は、この時期を象徴する作品と、諸地域で醸成されたアートプロジェクトというふたつの軸が絡みあうように構成され、国内外で活躍してきた日本人アーティストとともに海外のアーティストも取り上げます。本展覧会は、日本の現代美術の姿を、文化的な対話と参加による、多様かつゆるやかなネットワークとして描きだします。これは、日本の現代美術の独自性を強調するという従来の視点とは異なる見かたを提案する試みです。

本展覧会では、変化に満ちたこの時代に、日本の現代美術がいかに歴史的遺産やアイデンティティの多様性といった主題に取り組んできたか、いかに新しいコミュニティの可能性を模索してきたかを紹介します。また、グローバル化が進み始めて最初の20年にあたるこの時期に、日本の美術と視覚文化が世界に与えた影響を考察します。



参考画像：宮島達男《メガデス》1999年
© Tatsuo Miyajima,
© Estate of Shigeo ANZAI, 1999.
Courtesy of ANZAI Photo Archive,
The National Art Center, Tokyo

ブルガリ カレイドス 色彩・文化・技巧

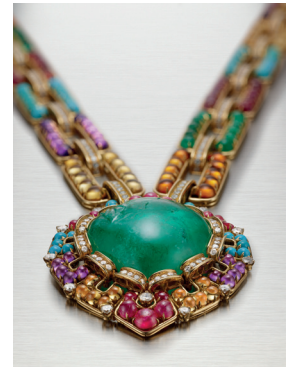
BVLGARI KALEIDOS: Colors, Cultures and Crafts

9月17日(水) — 12月15日(月)

【会場】企画展示室 2E 【主催】国立新美術館、ブルガリ

色彩は何千年にもわたり、芸術における最も強力なインスピレーションのひとつでした。画家、デザイナー、彫刻家、エナメル職人、金細工職人、宝石職人たちは、目に見える世界を表現するためだけでなく、彼らの作品が人々に伝え、共有する感情を表現するために、色彩の視覚的な力を用いたのです。

色彩は普遍的なものと言えるでしょう。というのも、色は五感のひとつである視覚によって知覚されるからです。18世紀から19世紀にかけて、科学者たちは色のスペクトルを分析することによって色彩の真の科学を確立し、私たちは目を介して脳へと、自分たちの体が色に対してどう反応しているのか理解できるようになりました。また、色彩は文化的なものでもあります。色彩は私たちが育くむ文明や教育というプリズムを通して感じられるものだからです。そのため歴史家たちは、色彩が古代・近代の創造活動に果たしてきた役割を熱心に研究し、それぞれの色の象徴性が国によってどの程度異なるものであったかを浮き彫りにしてきました。ハイジュエリーの色彩を研究することは、それを構成する宝石の核心へと迫る旅であり、宝石を通り抜け、貴金属に反射する光に導かれる体験をすることなのです。「カレイドス」はギリシャ語に由来し、「美しい(カロス)」と「形態、種類(エイダス)」を意味します。本展覧会では、さながら万華鏡のなかを巡るかのように、メゾンの歴史を刻む「ブルガリ・ヘリテージ・コレクション」と個人コレクションからの貴重なジュエリーとアートを堪能していただけるでしょう。素材、フォルム、色調の融合からなる約350点のヘリテージピースは、美と卓越性を追求し、様々な文化を越えて、色彩の力により皆様を魅了します。



《コンパチブル・ソートワール=プレスレット》
ゴールド、アメシスト、ターコイズ、シトリン、
ルビー、エメラルド、ダイヤモンド 1969年頃
ブルガリ・ヘリテージ・コレクション

Photo: Barrella - Studio Orizzonte Gallery

ご利用案内 | Visiting the Center

開館時間 10:00-18:00 会期中の毎週金・土は20:00まで
(入場は閉館の30分前まで)

休館日 毎週火曜日 [ただし4月29日(火・祝)、5月6日(火・祝)、
9月23日(火・祝)は開館]、5月7日(水)、9月24日(水)、年末年始

アクセス 東京メトロ千代田線乃木坂駅
青山霊園方面改札6出口(美術館直結)
東京メトロ日比谷線六本木駅 4a出口から徒歩約5分
都営地下鉄大江戸線六本木駅 7出口から徒歩約4分
※美術館に駐車場はございません



お問合せ 独立行政法人国立美術館 国立新美術館
〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2
TEL: 050-5541-8600 (ハローダイヤル)
URL: <https://www.nact.jp>

掲載の情報は変更となる場合がございます。
最新の情報はハローダイヤル、ホームページにてご確認ください。

